

NHK 時論公論「気づけなかったSOS～川崎・男子生徒殺害事件～」より

2015年2月28日 寒川 由美子解説委員

＜殺害された男子生徒は、おとし、島根県から川崎市の小学校に転校してきました。明るい性格で、好きなバスケの練習に励んでいたということですが、中学校に入学して以降の行動に異変があったことが明らかになっています。

▼中学校のバスケ部の部活動には、去年の夏以降、来なくなりました。

▼去年の11月ごろからは、夜の公園などで少年グループと一緒にいる姿がたびたび目撃されています。

▼冬休みが明けたことし1月からは学校に登校してなくなりました。

▼また、顔に殴られたようなあざがあるのを目撃した友人に対し、「先輩にやられた」と答えたということです。

▼別の友人には、「万引きを断ったら暴力を受けた」と訴えていました。

▼そして今月14日には友人に、インターネットの「LINE」を通じて「殺されるかもしれない」と連絡があったそうです。＞

＜川崎市の教育委員会によりますと、男子生徒が登校しなくなってから、担任の教師は連日のように、母親の携帯や自宅に電話。家庭訪問にも5回、行きましたが、本人とは連絡がとれず、母親は「遊びに出ている」などと答えていたということです。事件が起きるまで30回以上、電話しましたが、母親とも連絡がとれないことが増えていったということです。＞

＜今月16日には本人の携帯電話の番号がわかり、担任が電話をして「学校に来るように」伝えましたが、男子生徒から詳しい話を聞くことは出来ず、状況を把握することは出来ませんでした。＞

速報 第6回公演 決まる！

原作 広田 和子

脚本・演出 野村勇

「トラック島のヘル」(仮題)

2019年12月7日(土)

当劇場 両国・シアターXにて

ぜひお越しくださいますよう、お願いいたします。



劇団こむし・こむさ 上演記録

第1回公演 2014年10月28日 「右から三つ目のベンチ」 於、日暮里d-倉庫

第2回公演 2015年11月10日 「たった二軒の回覧板」 於、日暮里d-倉庫

第3回公演 2016年11月1日・2日 「啄木の蒼き影法師」 於、日暮里d-倉庫

第4回公演 2017年11月21日 「水の中の塔—東京スカイツリー異聞—」 於、両国シアターX

全作品 作・演出 野村勇

キャストとして、スタッフとして、協力者として、参加して下さる方を募集しています。

年齢・演劇の経験は問いません。興味・関心のある方なら、どなたでも。ぜひ、あなたのご参加をお待ちしています。一緒にお芝居を作りましょう！

お問い合わせは、下の劇団の連絡先までお願いします。

劇団の連絡先 ☎090-6043-8303 (久松)

メール nomura1949@gmail.com (野村)

劇団のホームページ 劇団こむし・こむさの部屋

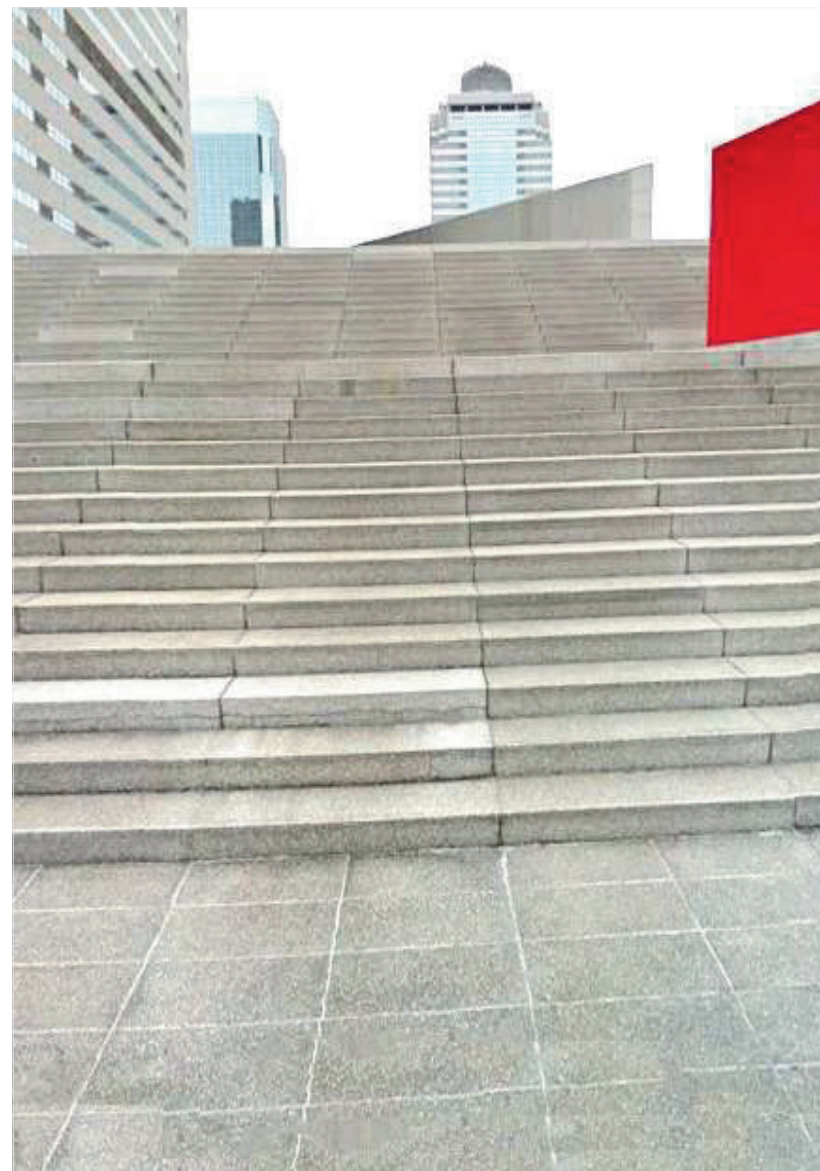
<http://www.ichikiyo.com/komushi.htm>

劇団代表・野村勇のブログ こむし・こむさの日々

<http://komushikomusa.jugem.jp/>

劇団こむし・こむさの
メンバーを募集しています!!

シアターXカイ提携公演
劇団こむし・こむさ
第5回公演



作・演出 野村勇

降りる人—時代

2019年 1月19日(土)

昼の回 14:00 夜の回 18:30

劇場 東京・両国 シアターXカイ



■作・演出より 野村 勇

第5回公演を迎えて

劇団を復活させてから丸4年が経ち、本日、念願の第5回公演を迎えることができました。「念願」の訳を申しますと、半世紀前、第一次の「こむし・こむさ」は、第4回公演をもって頓挫してしまったからです。劇団を復活させたからには、今度は、簡単に頓挫させてはならない、そういう思いでやってまいりました。

ここまで来れましたのも、私どもの芝居を見てくださる方々がいらっしゃるからだと感謝しております。本日も足をお運びくださいまして、本当にありがとうございます。

＊

さて、今回のお芝居について、野暮とは思いますが、少し書かせていただきます。昨年の冬、『降りる人一時代』の台本を書き終えて、何か月か経った頃、日大アメリカンフットボール部の悪質なタックル問題が起きました。タックルをした選手は、自ら名乗り出て、記者会見を開きました。

この問題で露呈したのは、選手の上に絶対的なコーチが居り、さらにその上に監督が君臨しているという、まるで「親分」「子分」のような構図・力関係でした。「監督→コーチ→選手」という上意下達の関係ではなく、「監督←→コーチ←→選手」のように、双方向にベクトルが働く関係であれば、日大アメフト部のような事例は起きなかったのかもしれませんが。

アメリカンフットボールに限らず、2018年には他のスポーツでも、同じような問題が多発しました。しかし、考えてみますと、スポーツ界に限らず、「監督→コーチ→選手」に似た構図・ヒエラルキーは、普通の職場や組織でも見られることです。（最近は開放的な会社もあるようですが）

日大アメフト部の選手は、記者会見の終わりで、今後「アメフトを続けていくという権利はないと思っています」と発言しました。彼は、「監督→コーチ→選手」の縦のラインから「外れる」ことを決意して、会見に臨んでいたのです。監督・コーチの「子分」ではなく、一人の人間として、彼は記者会見の席に座っていました。

彼はアメフト部という一つの組織から「降りる」選択をしたわけですが、人として大きな階段を一步上がったように見えました。そして、その行動は、一個人の問題で終わらず、スポーツ指導のあり方や、大学運営のあり方について、大きな石を投ずることになりました。

「時代に反対する――願わくば将来の時代のためになるように」（ニーチェ）という言葉がありますが、彼の行動はまさに、この言葉を体現しているように感じられました。

職場で過労死や自殺に追い込まれた人や、いじめにあって自ら命を断った子供のニュースがずっと続いています。「生」から「降りる」ことを余儀なくされてしまう出来事が絶えません。

「降りる」……私は「死」を選ぶ前に、「降りる」選択をしてもいいのではないかと考えています。社員であれば配置換えを希望したり、状況によっては退職を決意したり、子供であれば（周囲の大人のサポートが必要ですが）保健室登校をしたり、ひどい場合には転校を考えてもいいのではないかと思います。

「降りる」ことを敗北としてとらえず、生き続けるために、ときと場合によっては、勇気を持って「降りる」ことも必要だと考えるのです。その勇気が、ほかの人を励まし、時代を変える灯ともなり得るような気がします。

■照明家より 安達 直美

あっという間に、一年が立ち、またまた『こむし・こむさ』さんの作品に関わる事が出来ることに、幸せを感じています。オベをしながら、皆様とご一緒に、作品の世界にのめりこませていただきます。

■音響家（市来 邦比古）の紹介

1970年代、小劇場演劇の黎明期にフリーの音響家として様々な劇団・演出家と共同作業を行い、1976年、劇団第七病棟創立に参加。1969年から現在まで、プランナーとしてクレジットされた作品は500作品以上。世田谷パブリックシアターをはじめとして、北九州芸術劇場、まつもと市民芸術館など多くの音響設備設計に関わってきた。尚美学園大学などの非常勤講師もつとめる。ごく最近の作品としては、まつもと市民芸術館実験劇場「白い病気」（原作 カレル・チャペック、潤色・演出・美術 串田和美）、二兎社公演「ザ・空気 ver.2 誰も書いてはならぬ」（作・演出 永井愛）などがある。

キャスト

R区立中学校

副校長・嘉川かすみ	今野好江
校長・八巻良太郎	市川清文
用務主事・一ノ瀬春恵	荘司あや子
教諭・原島菜々	青木一代

R区立小学校

副校長・両角仁	久松健司
---------	------

R区教育委員会

教育次長・水元圭司	野村勇
-----------	-----

スタッフ

作・演出	野村勇
音響	市来邦比古
照明	安達直美
照明協力	針谷あゆみ
装置	野村勇
映像	市川清文
プロジェクター操作	渡辺正道
小道具	高津装飾美術（株）外村兆路

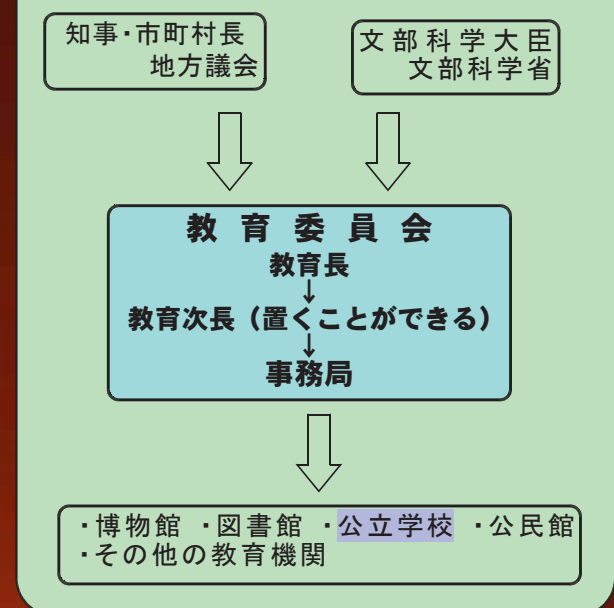
＊

協力	飯島正明
	宮澤清子
	萩野谷正博
	宮崎富美江
	渡辺正道

シアターXのスタッフの方々

ほかにも沢山の方々に
ご協力をいただきました。
ありがとうございました。

教育委員会と 公立学校の関係図



「川崎中1殺人事件」の概要

2015年2月20日、川崎市川崎区の多摩川の河川敷で、13歳の中学1年生の少年が殺害された事件。

現場から数十メートルの場所で大量の血とともにカッターナイフの刃が見つかった。発見時、少年は衣服を身に着けていなかった。司法解剖の結果、死因は首への刺し傷や切り傷による出血性ショックと判明した。

事件から1週間後に、遊び仲間のグループのリーダー格とされる18歳の無職の少年、17歳の少年2名、計3名が殺人の疑いで逮捕された。

少年が使っていたスマートフォンの履歴を調べたところ、グループのメンバーが事件の直前、「LINE」で少年を呼び出していたことが確認された。

2017年1月、加害者である3人の実刑がすべて確定した。1人は殺人と傷害罪で懲役9年以上13年以下、傷害致死罪に問われた1人は懲役6年以上10年以下、もう1人は懲役4年以上6年6月以下の不定期刑とされた。